

## 感染症情報 3月21日～27日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1229例	（堺市 40例）
②溶連菌感染症	358例	（堺市 10例）
③おたふくかぜ	169例	（堺市 2例）
④突発性発疹	73例	（堺市 2例）
⑤みずぼうそう	71例	（堺市 4例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 3062例（堺市 251例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から15%減少し、上位の順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは定点当たり10.0と6週連続して減少、春休みに入ったこともあって前週より40%減少し、ピークの4分の1以下となった。堺市でも9.0と注意報レベルも下回った。春休みに入ったので、更に減少すると思われるが、新学期が始まる頃まで流行が残ると、再燃する可能性も否定できない。

はしかの報告はなく、風疹は1例の報告があった。